

人権週間 映画会

入場無料

令和5年(2023年)

12月6日(水)

キセラ川西プラザ・キセラホール

定員/各1,000人 当日先着順・入れ替えなし

■上映スケジュール

「ストールンプリンセス キーウの王女とルスラン」

①12:00~13:34 ②16:00~17:34

「世界は僕らに気づかない」

①13:45~15:37 ②17:45~19:37

※折り鶴平和大使による活動報告 15:38~15:55

世界は僕らに気づかない



Angry son

©「世界は僕らに気づかない」製作委員会

世界は僕らに気づかない

2022年 日本 112分 日本語字幕付 PG12

異なる文化を持つ母親と息子 不安定な感情を
ぶつけ合う、“愛の問題”についての物語

それでもこの国で生きてゆく母と子

日本で生まれ育ったフィリピン国籍の純悟。フィリピンパブで働く母親のレイナ。恋人は同級生の優助。父親のことは何も知らない。純悟が多くの問題を抱えながらこの国で生きてゆく。



ストールンプリンセス キーウの王女とルスラン

日本語吹替え 2018年 ウクライナ 94分 3Dアニメーション

ウクライナ発のアニメーション映画を上映!

舞台は、ウクライナの首都・キーウ。ルスランは、愛するミラを助けるためにあらゆる障害を乗り越え、本当の愛は魔法よりも強いということを証明するべく旅へと出るが、そこには様々な困難が待ち受けていて…。

～本作はウクライナへの支援として、EllesFilms(株)代表取締役の粉川さん(川西市出身)がほぼ全財産を費やし日本上映権を購入。その後クラウドファンディングを行うと日本中から応援の声が届き、集まった金額は950万円に。そして上映の趣旨に賛同する日本の映画企業と豪華声優陣が集まり、公開が実現した。～

©2018,SSVG EAST FUND INVESTMENT, LIMITED /©2018,"ANIMEGRAD" LTD/©2018,UkrainianStato Film Agency
©「ストールン プリンセス:キーウの王女とルスラン」製作委員会

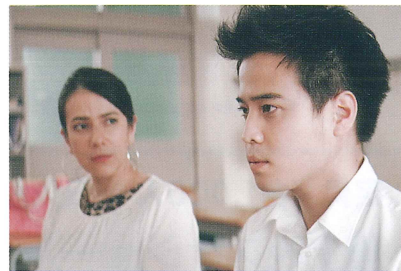
主催:川西市

【問い合わせ:市長公室 人権推進多文化共生課】 ☎072-740-1150

『世界は僕らに気づかない』

●STORY

群馬県太田市に住む高校生の純悟(堀家一希)は、フィリピンパブに勤めるフィリピン人の母親レイナ(ガウ)と一緒に暮らしている。父親のことは母親から何も聞かされておらず、ただ毎月振り込まれる養育費だけが父親との繋がりとなっていた。純悟には 恋人の優助(篠原雅史)がいるが、優助からパートナーシップを結ぶことを望まれても、自分の生き立ちが引け目となり、なかなか決断に踏み込めず、一人苛立ちを抱えていた。そんなある日、レイナが再婚したいと、恋人を家に連れて来る。見知らぬ男と一緒に暮らすことを嫌がった純悟は、実の父親を探すことにするのだが……。



●オール群馬ロケで制作された新しい映画の形

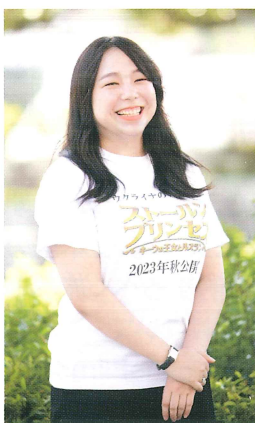
本作は、監督、スタッフ、キャストなど、作品に関わる多くの人々が群馬県在住者及び、出身者で制作され、全編群馬県内にて撮影されるなど、東京中心になりやすい通常の映画制作とは一線を画している。

群馬県は工場が多い土地柄、古くから外国人労働者が多く在住し、彼ら彼女らが日常の風景の中に溶け込んでいる。自治体も多様性の認知について積極的に取り組んでおり、2020年には県内全域に「ぐんまパートナーシップ宣誓制度」が導入されるなど、人種やセクシュアリティの多様性を身近な問題としてとらえ、真摯に取り組んでいる地域でもあるため、本作の撮影にはうってつけの地域だった。

※2022年の大阪アジア映画祭でワールドプレミアを迎え、"来るべき才能賞"を受賞。

『ストールプリンセス キーウの王女とルスラン』

この映画でウクライナについて考える きっかけにしてほしい



Elles Films (株)代表取締役
粉川 なつみ さん(27)

川西市出身。川西緑台高校卒業後、東京の大学を経て都内の映画配給会社に就職し、「THE STOLEN PRINCESS」に出会い、日本初のウクライナのアニメーション映画を上映するために配給会社を設立。クラウドファンディングをして資金を集めるなど奔走し、9月22日に公開を実現させる。ウクライナ支援に貢献。

—川西での思い出を教えてください。

5歳から高校を卒業する18歳までの13年間を川西で過ごしました。近くのレンタルビデオ店で洋画を借りて友達と見たり、部活終わりに商店街で仲間と道草したり。私の青春は川西にありますね。

—なぜ、映画でウクライナ支援をしようと思ったのですか。

きっかけはウクライナ侵攻のニュースです。何かできることはないかと考え、仕事上で知ったウクライナのアニメーション映画を思い出したんです。日本で上映することで、ウクライナへの支援につながればと思いました。当時動いていた映画配給会社と相談しましたが、上映はかなわず。なら自分でやればいいと思い、一念発起で退職し、起業。資金調達には苦労しましたが、多くの人たちの支援で日本での上映ができることになりました。本当に感謝しかありません。

※広報かわにしmilife 2023年9月号から一部抜粋

(このチラシ1部の経費は約14.6円です。)